AKENO CENTRAL HOSPITAL

明野ふくろう便

明野中央病院広報誌 vol.5
日本医療機能評価機構　認定病院

患者様の声

ご意見箱より

◎☆☆☆☆星ホテルに滞在し、ここころが癒されリフレッシュされた感じです。看護師の皆さんの対応、患者の状況を把握した指示の徹底、当然のことながら気配りの気持ちは全天使さんが同じ対応。役割分担をテキパキと、可愛い声と徹底された態度に元気をもらいました。薬剤師の丁寧な指導、リハビリ担当者の「ハレモノに触るような」痛みの分かる対応に頭が下がります。

◎先日診察に来た時に、女子トイレの2番目のドアの不具合を書きましたら、今日早速修理されていてすごく感動しました。さすが対応が早い！いつまでも気配り、心配りの病院であってほしいです。

◎対応が不親切。問い合わせに対し一般的で事務的な答えしか返って来ない。親身な対応がない。以前は親切で良かった。

ご意見いただきありがとうございます。行き届かない点は反省し、改善していきたいと思います。今後とも忌憚のないご意見、ご指導をお願いいたします。

花日記

2階ウッドデッキから

2階ウッドデッキテラスにはボランティアの方々が育てた四季折々の花が咲いています。傍らの「花日記」には多くの書き込みが…

赤とピンクのカーネーションが可愛くて母の日を思い出しました。

患者様とテラスに来ました。丸く色づいたナスを見て「トマト、カボチャ、あんず、柿、サクランボなどたくさん育てていました」と入院前の生活を話してくれました。

お母さんメダカが卵を産みました。赤ちゃんメダカ、どんどん増えちょくれ～！

入院中は毎日ここに来ました。昨日つぼみだった花が開いているとついうれしくて顔がほころびます。トウモロコシやナスも毎日成長していくのが楽しみでした。今日の退院の日に花や草木には恵みの雨が降って、我が家の庭を見るようにうれしかった。有難うございました。

INFORMATION

診療科目

内科・外科・消化器科・肛門科
リウマチ科・整形外科・形成外科
リハビリテーション科

診療時間

月曜日～金曜日　午前9時～午後6時
土　曜　日　　午前9時～正午
日曜日・祝祭日　休診
（急患は、随時受付）

病院理念

医療・介護を通じ、
患者様の生活の質の向上に奉仕する

基本方針

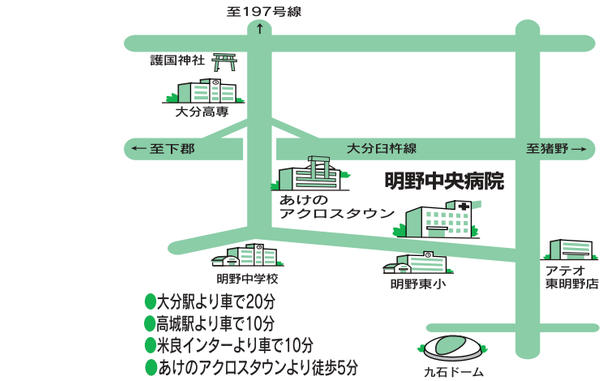
一、患者様のために、
家庭的な優しい医療・介護の実施に努めます

一、患者様のために、
地域の皆様から安心・信頼される病院づくりに努めます

一、患者様のために、
患者様ひとりひとりの権利を尊重するように努めます

一、患者様のために、
たえず医療・介護の質の向上に努めます

一、患者様のために、
地域の健康増進・病気の予防に努めます



医療法人社団 唱和会
明野中央病院
日本医療機能評価機構　認定病院

発行日　2007年10月
発　行　明野中央病院広報委員会　代表 木下昭生
〒870-0161　大分市明野東2丁目7番33号
TEL 097-558-3211（代表）FAX097-558-3709
E-mail akenohp@fat.coara.or.jp
http://www.coara.or.jp/~akenohp

～安全と安心のために～ 医療安全管理者に認定

『To err is human』人は過ちを犯す。しかし、医療の安全はすべてに優先して守られなければなりません。それでも人は過ちを犯す。即ち、医療の安全管理対策にゴールはありません。

全国の病院で頻発する医療事故を受けて、厚生労働省は医療機関における安全対策、医療安全を推進するための環境整備等を骨子とする医療安全推進総合対策をまとめ、平成18年には医療法を改正し、医療安全管理体制の整備拡大を図っています。

当院においても、平成17年6月に、ヒューマンエラー（人的ミス）防止に関する第一人者である河野龍太郎氏の講演会を開催するなど、医療事故防止委員会を中心に医療安全の啓蒙に努めてきました。また本年4月には医療安全管理部を新設し、医療安全に対する管理・対策・教育を強化しました。

更にこのたび、専任管理者の奥野文子が全日本病院協会および日本医療法人協会共催の「医療安全管理者養成課程講習会」を修了し、医療安全管理者として認定されました。今後とも、患者様の安全と安心の確保に全力を尽くしたいと思います。

医療安全管理者
奥野　文子

認定証

奥野　文子　殿

手厚い看護 7対1看護体制へ

当院2階の一般病棟の看護体制（患者数に対する看護職員の人数）は、従来10対1（患者様10人に対して看護師1人）でしたが、このたび看護職員の増員を行い、現行の看護師配置基準で最高の7対1（患者様7人に対して看護師1人）の看護体制にいたしました。

これは現在の日本の医療制度の中では最も患者様に手厚い看護体制です。夜間や休日も含め、平均して患者様7人に対して1人以上の看護職員を配置する。重症度が高く、多くの看護が必要な患者様に対し、少しでも長い時間お世話ができるように。より多くの目で見守ることができるように。行き届いた細やかな心配りができるように。そして、今まで時として過度になることもあった看護師の業務量を適正化し、今まで以上の安全と安心を提供できるように。

すべては患者様の1日も早い回復のために。充実した当院看護部に今後ともご期待いただきますようお願い申し上げます。

看護部長
鈴木　京子

～癌終末期の緩和医療の現状・ホスピスの現場から～

独立型ホスピス大分ゆふみ病院院長 山岡憲夫先生講演会開催

日本人の死亡原因第1位の癌。今や3人に1人が癌で亡くなると言われています。癌の末期、人生の最期を迎える患者様とどう向き合うか。ご家族、医療従事者だけでなくまわりで支える人々にとっても避けて通れない課題です。

9月21日（金）当院にて、大分ゆふみ病院院長の山岡憲夫先生をお招きし、「癌終末期の緩和医療の現状・ホスピスの現場から」をテーマに講演会を開催しました。

ホスピス（緩和ケア病棟）とは、①主に末期の癌患者が、その人らしく真に生きる場所であり、②痛みなどの症状を緩和し、ご自宅へ帰れるようにケアする場所であり、③人生の最期を迎える場所です。残された日々を人間としての尊厳を保ちつつ、患者様とそのご家族が、可能な限り苦痛なく充実した日々を送れるように医療援助を行う。先生の豊富な経験を基に、ホスピスの現状について熱心に講演していただきました。

当日は、市内の病院や介護施設の職員、ボランティア会、一般の方など約200名の参加があり、限られた命を懸命に生きようとする患者様とそれを支えるご家族、ホスピススタッフの取り組みに真剣な表情で聴き入っていました（泣いている方も多くみられました）。

講演終了後、訪問看護や在宅介護の現場の代表者らも交えたシンポジウムが行われ、終末期の在宅医療とホスピスとの連携などについて熱心な討議が行われました。

大分ゆふみ病院
院長　山岡　憲夫　先生

五十肩について

整形外科部長 工藤 修己

中高年になって、特に原因もなく肩が痛くて腕が上がらなくなったり、手が後ろに回らなくなったりしたら、肩関節周囲炎（五十肩）が疑われます。肩関節周囲炎とは、原因がはっきりせず、肩関節の周囲に炎症を生じ痛みと動きの制限を伴う症候群です。

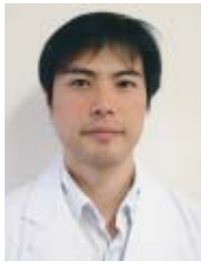
この病気が「四十肩」や「五十肩」と呼ばれるのは、40歳以上の人に起こりやすく、特に50代の人に多くみられるからです。これは俗称で（正式な病名ではなく）最初に用いられたのは江戸時代といわれています。

症状は、肩の動かしはじめや安静時にも痛みの強い時期があり、その後肩の動きに制限が生じ日常生活動作に支障をきたし、夜間痛みで目が覚めてしまうこともあります。そして安静にしているうちに徐々に動きも改善し、日常生活にも不自由を感じなくなってきます。

五十肩は自然に治るといわていますが、適切な治療をしないと症状を長引かせたり、運動制限の後遺症が残ったり、悪化させることにもなります。また、なかなか治らない場合には、腱板断裂や石灰沈着性腱板などの病気も疑われますので、整形外科専門医にご相談することをお勧めします。

専門分野	整形外科 （外傷・関節外科・脊椎外科）
資格等	日本整形外科学会認定専門医 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
趣味特技	ワイン、ガーデニング

主に関節疾患、外傷、脊椎疾患、リウマチなどの治療に携わってまいりました。今までの経験を活かし、地域医療に貢献していきたいと思います。病気や治療についての疑問・質問などありましたらご遠慮なくご相談下さい。



整形外科部長
工藤（くどう）　修己（おさみ）

生活習慣の改善を！

院長講演

院長　木下　昭生

10月2日、㈱トキハインダストリーにて職場の安全衛生をテーマに健康セミナーが開かれ、当院院長の木下昭生が「楽しく食べて健康で長生きしよう」と題し講演を行いました。生活習慣病、メタボリックシンドロームなど食事が健康に及ぼす影響が問題になっています。食欲の秋。しかし、日頃の食習慣について一度見直してみませんか？

メタボリックシンドロームの診断基準

ウエスト周囲径	
男性	85cm以上
女性	90cm以上

＋

以下のうち2項目以上
- 高血圧
- 高血糖
- 血清脂質異常

訪問看護ステーション開設二周年

「訪問看護ステーション・ふくろう」を開設して1年が経ちました。「地域に根ざした医療と看護」　今後ともよろしくお願いいたします。

お問い合わせ・お申し込み
TEL　0971558-3211
FAX　0971503-1324
担当：淵野

中学生職場体験

9月12日～14日の3日間、明野中学校の2年生4名が、当院にて職場体験学習を行いました。

授業の一環として行われるもので、将来の進路の参考になればうれしく思います。医師、看護師をはじめ専門職種の集合体である病院という職場。患者様の命や暮らしに大きな影響力を持つ職種ばかりです。私たちの仕事はキミたちの目にどう映ったかな？

リハビリ機器も体験

患者様の足を洗いました

野菜を手術(?)しました

～改めまして～禁煙のススメ

昨年春、医療機関での禁煙治療が保険適用になりました。さまざまな病気の原因といわれるタバコ。禁煙治療への保険適用は、喫煙自体がニコチン依存症という病気であると捉え、積極的に医療機関で治療していこうというものです。当院でも昨年より保険適用となる禁煙外来を開設し、積極的に治療に取り組んできました。しかし、実際の禁煙はそれほど簡単なことではないようです。当院でのこの1年間の禁煙外来の治療成績についてまとめたものを当院のホームページ（http://www.coara.or.jp/~akenohp/）に掲載していますのでご覧ください。

「やめたいけど…やめられない…」しかし、重い病気にならないためにも、ぜひ専門スタッフにご相談ください。

禁煙外来	
診察日	月曜～土曜日 午前
担当医	木下　昭生(院長)

詳しくは、受付窓口にてお問い合わせください。

お誕生日おめでとう

当院では、入院中に誕生日を迎えた患者様の昼食のお膳にバースデイカードとデザートを1品プレゼントしてお祝いしています。せっかくの誕生日を病院で迎える患者様にささやかですが職員からのメッセージ。ハッピーバースデイ！そして1日も早いご回復を。

～マナー守って～携帯電話の使用

従来、当院では医療機器の誤作動などの問題もあり携帯電話の使用を禁止してきましたが、一定のルールを決めて使用制限を緩和しました。2階および3階の談話室を携帯電話の使える区域として設定し、「グリーンゾーン」のポスターを貼っています。使用区域でもマナーモードへの切り換え、医療機器への影響、他の方の迷惑など、くれぐれも周囲への十分な配慮をお願いいたします。

グリーンゾーン
使用可能区域

レッドゾーン
使用禁止区域